

共立女子第二中学校

2020年度

入学試験問題（2回AM）

【 国 語 】

試験時間 50 分

【 注 意 】

- 1 試験開始の合図があるまで、中を見てはいけません。
- 2 問題は一～三で、全部で11 ページです。試験中によごれや不足しているページに気づいた場合は、手をあげての先生を呼んでください。
- 3 解答はすべて解答用紙にはっきりと記入し、解答用紙だけを提出してください。

一、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(本文には一部改めたところがあります)

「そろそろ危なくなってきた」と思いながらハンドルを握るうちに、ある日、人を巻き込んだり自分が命を落としてしまう。そうした悲劇をなくすためには、お年寄りや家族が危険を感じたときにマイカーを手放しても生活に不自由のないよう、代替手段が地域に整備されていることが必要です。高齢ドライバー問題で最も重要なテーマは、実はこの「①」をどう確保していくのかということです。②

特に、公共交通機関が発達していない地域では、無理をして運転を続けている高齢者が少なくありません。国際交通安全学会では一九九五年、この問題に関する調査を実施しています。調査対象は、大都市(東京都北区・人口三三万人)と中都市(埼玉県熊谷市・同二〇万人)、小都市(群馬県館林市・同八万人)の三区市で、五五歳以上のそれぞれ二〇〇人から話を聞きました。【A】

運転免許を持つている人の割合は、小都市四四%、中都市三七%、大都市二八%——の順で、人口が③ほど高く、④では免許保有者の七三%が「ほとんど毎日運転する」と答えています。これは人口が⑤地域ほど、高齢になっても生活のためにマイカーに依存せざるを得ないことを裏づけています。しかし、利用者の⑥地域に鉄道やバスを通せば大変な⑦字になり、自治体の財政にも影響を及ぼします。そうした地域で高齢者の暮らしを支える重要な役割を担い始めたのが、民間におけるさまざまな移動サービスです。

その一つに、最近注目されているNPOなどによる「自動車有償送迎」があります。道路運送法ではこれまで、バスやタクシー会社などのように営業許可を得ていない、①白ナンバー車が有料で人を乗せることを原則として禁じていました。②介護保険制度の導入など厚生労働省の在宅介護支援策が進み、例外的に活動していたNPOや社会福祉協議会による移動サービスの利用が急増しました。③国土交通省は二〇〇六年一〇月に法律を改正し、過疎地、④福祉目的に限り、⑤条件つきで白ナンバー車による有償送迎を認めました。【B】

条件とはまず、他の交通機関の経営を圧迫しないよう地元のタクシー、バス会社など関係者を集めた運営協議会を開き、合意を取り付けること。料金もタクシーのおおむね半額以下でなければなりません。家の玄関から病院やスーパーまでタクシーより安い値段

で送迎してもらえるため、高齢者にはとても便利なサービスです。

別の移動手段としては、電動の三輪車や四輪車も注目されています。現在、全国で約一四万台（障害者が利用する電動車いすも含む）が利用されているとみられ、要介護二以上の人には介護保険制度により一割負担のレンタルも認められています。

⑨ 電動車の普及に取り組み自治体も出ています。高齢者が住民の四割近くを占める島根県邑南町では、高齢者の外出支援策として電動車の購入費を一部助成する制度を導入しました。町役場やスーパーなどに充電専用のコンセントも設けられ、利用する環境も整備されています。町の財政難により、この助成制度は二〇〇六年度でいったん休止となりましたが、町内では電動車でさまざまな用を足しに行くお年寄りの姿を日常的に見かけます。中には家族から運転をやめるように言われ、電動車に乗り換えた人もいます。【C】
⑩ ただし、事故も起きています。警察庁によると、電動車の事故（電動車いすも含む）は二〇〇六年に全国で二五八件起きており、うち一〇人が死亡。事故件数は一〇年間で二倍になっています。半数以上は道路の横断中に起きています。電動車は背丈が低く、車の運転者の死角に入りやすいことも原因です。また、速度が遅いために踏切を渡りきれず、電車にひかれる事故も発生しています。利用する際には遠回りでも横断歩道を渡り、左右を十分確認することや、踏切ではあまり端に寄りすぎないことが大切です。また警察署や電動車メーカーによる安全講習も随時開かれていますので、問い合わせて参加するのがいいでしょう。

一方、バス業界の規制緩和のあおりを受け、近年過疎地の⑦字バス路線が次々と廃止されています。廃止後の地域では住民や自治体の主導によりコミュニティバスを走らせる試みも広がっています。【D】

新しいバスを作っても、⑦字路線と同じルートを経由しているだけでは、また同じように経営が成り立たなくなり、撤退を余儀なくされます。地域住民のニーズを十分把握したうえでルートを作れるかどうかが成功のカギを握っています。

〔毎日新聞生活報道センター「高齢ドライバー 加害者にならない・しないために」〕

問一 ①に身体の一部を表す漢字一字を、⑦に色を表す漢字一字を、それぞれ答えなさい。

問二 ②「そこ」とありますが、あてはまる内容を本文中より十七字で探し、はじめと終わりの五字をぬき出しなさい。（句読点などがあれば一字とします）

問三 次の段落が本文中よりぬけています。【A】と【D】のどこにもどせばよいですか。記号で答えなさい。

【ぬけている段落】

成功例としては三重県四日市市の「生活バスよっかいち」があります。路線バス廃止を機に立ち上がった地元住民がNPO法人を設立。住民アンケートをもとにスーパーと駅をつないで金融機関や病院、福祉施設などを経由する路線を作り、バス会社に運行を委託する形で一日五・五往復しています。運賃は一〇〇円。利用者は年々増加しています。

問四 ③と⑥にあてはまる語の組み合わせとして最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア ③多い ④ 小都市 ⑤少ない ⑥少ない

イ ③少ない ④ 小都市 ⑤少ない ⑥少ない

ウ ③多い ④ 大都市 ⑤多い ⑥多い

エ ③少ない ④ 大都市 ⑤多い ⑥少ない

問五 aとdにあてはまる語として適するものを選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア このため イ しかし ウ もしくは エ いわゆる

問六 ⑧「条件つき」とありますが、条件を二つ、本文中の語句を使って解答らんに合うように、それぞれ二十字以内で答えなさい。

問七 ⑨「電動車の普及」とありますが、その方法としてあてはまるものを二つ選び、記号で答えなさい。

ア 購入者に費用全額を支給すること。 イ 充電用コンセントを設置すること。

ウ 警察署などで安全講習を行うこと。 エ 速度の速い電動車を開発すること。

問八 ⑩「中には家族から運転をやめるように言われ」とありますが、家族が心配する具体的な内容を、本文中より二十字で探し、

はじめと終わりの五字をぬき出さない。(句読点などがあれば一字とします)

問九 ⑪「ただし、事故も起きています」とありますが、その理由としてあてはまる連続する二文を探し、はじめの五字をぬき出さない。

問十 「高齢ドライバー問題」について、本文で述べる解決策のほかによりよい方法を具体的に考え、解答らんに一行程度で答えなさい。

二、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。（本文には一部改めたところがあります）

〔本文は、紗希がサナエの誕生日会に行けなかったことから二人が険悪になったという話を、修理屋のおじさんに聞いてもらっている場面である。〕

千春の話を聞き終えたおじさんは、低くうなった。

「ややこしいことになっちまってるなあ」

そのとおりだ。ものすごく、ややこしいことになっている。

「いわゆる価値観の相違^①ってやつだ。小五でもあるんだなあ。そりゃ、あるか」

「カチカンノソーイ？」

またしても、千春にとってははじめて聞く言葉だった。

「生きていくうえで大事にしたいものが、ちがうってこと」

おじさんが補った。それなら、千春にもなんとなくわかる。

「有名な学校や大きな会社に入るのが、すごく重要だって考えるひともいる。そうじゃないひともいる」

正直なところ、紗希の主張を、千春も完全に理解できているわけではない。もちろん、「悪い学校」よりも「いい学校」で学び、

「悪い会社」よりも「いい会社」で働くに越^こしたことはないだろう。でも、「いい人生」と言われても、それが具体的にどんなもの

なのか、どうもぴんとこない。

「価値観の相違^{ちが}っていうのは、おとなの世界でもよくあるんだ。それが原因でいろんな争いが起きてる。今も昔も、世界中でね」

おじさんは、うんざりした顔でため息をついている。

「友だちどうしのけんかだけじゃない。夫婦^{ふうふ}が離婚^{りこん}したり、国^{くに}どうしが戦争をおっ^おはじめたり」

「せ、戦争？」

「うん。極端な例だけだな」

千春にも、ため息が伝染した。そんなにむずかしい話だったのか。

「じゃあ、どうすれば仲直りできるの？」

「きみはどう思う？」

聞き返されて、頭を整理してみる。紗希とサナエちゃんの価値観とやらが食いちがってしまっているのが、問題らしい。ということとは、

②
「いいの？」

「それは無理だろうな」

おじさんが首を振った。

「え？ でもさつき、価値観がちがうのが問題だって……」

「原因だって言ったんだ。問題じゃない。問題は、そのちがいを受け入れられない人間がいるってこと」

きつぱりと言う。

「別に、同じにしなくていい。いや、すべきじゃない。みんな同じじゃ、つまらんからな。ほら、カレーだってそうだろ？」

「へ？ カレー？」

「いろんな種類のスパイスを入れるから、味に深みが出ておいしくなる。カレー、作ったことないか？」

「あるけど」

去年、調理実習で作った。いろんな種類のスパイスなんか使わなかった。板チョコみたいなかたちのルウを砕いて、鍋に放りこんだだけだ。

③
おじさんのたとえ話は、たまにわかりにくい。

けど今は、カレーの作りかたはどうでもいい。とにかく一番知りたいことを、千春はたずねた。

「だったら、仲直りはできないの？」

「いいや、そうとは限らない。たとえばさっきの話だけど、きみはいい学校やいい会社に入りたい？」

急に話が飛んで戸惑とまじいつつ、千春は正直に答えた。

「よくわかんない」

「ほら。きみの価値観と、その友だちの価値観も、ぴったり同じってわけじゃない」

「あ」

「だからって、その子も受験なんかやめちまえとは思わないよな？」

千春はこくりとうなずいて、でも、とつけ足した。

「ちよつとさびしい」

「そうか、そうだよな」

おじさんがつぶやいた。

「じゃあ、その子の受験がうまくいかなきゃいいと思う？」

「まさか」

そんなことは、思わない。クラスが上がったと報告してきた紗希のうれしそうな顔が、千春の頭に浮うかんだ。

「そういうことなんだよ。価値観がちがったって、友だちでいられる」

おじさんが千春の顔をのぞきこんだ。

「認めればいい。自分とはちがう考えかたも存在するってことを。そのふたりも、おたがいを認められれば、仲直りできる」

「うん」

でも、どうやって？

「きみが手助けしてあげれば？」

千春の疑問を読みとったかのように、おじさんがにっこり笑った。

翌日、千春はさっそく紗希に持ちかけてみた。

「サナエちゃんと仲直りしたら？」

「なにそれ、あたしからあやまるってこと？」

紗希はあからさまに顔をこわばらせた。もともと大きな目をさらに見開いて、千春をきつとにらみつける。

すんなり賛成してはくれないだろうと、千春も覚悟かくどはしていた。紗希は④なのだ。一度こうと決めたら、かんたんにはゆるらない。

「あやまるっていうか、とりあえず話をしてみるとか……」

「絶対いや」

紗希がぶるんと激しく首を振った。

「だって、あたしは悪くないもん」

「わたしもそう思うよ」

紗希は悪くない。そしてサナエちゃんも。ただ、⑤だけなのだ。

おじさんに言わせれば、「価値観の相違」をめぐるもめごとは、たいていそうらしい。片方がよくてもう片方が悪い、あるいは片方が正しくてもう片方がまちがっている、ということとは、ほとんどない。

大丈夫だいじょうぶ、本人たちも仲直りしたいと思ってるはずだから、とおじさんは自信たっぷりに請こけあってもいた。ふたりとも意地張いぢぢって、きつかけをつかみそこねてるだけだ。誰だれかが背中を押おしてあげれば、きつとまるくおさまる。⑥

「でも、早く仲直りしたほうがいいよ」

千春は思いきって続けた。紗希が不服そうに口をとがらせ、けわしい声でまくしたてる。

「なんでそんなふうに言うの？ 千春もサナエちゃんの味方なわけ？ がんばって勉強するのが、どうしていけないの？」

千春は紗希から目をそらさずに、ただ聞いていた。いつもおじさんが千春の話を聞いてくれているときに、そうするように。

「がんばらなきゃ、ついていけないんだもん」

ほんの少しずつ、紗希の声が小さくなった。

「あたしだって、千春やみんなと遊びたいんだよ……でも、どうしても時間が足りなくて……クラスもまた落ちちゃったし……」
口をつぐみ、目をふせる。

「わたしも紗希と遊ばなくて、さびしいよ」

千春は注意深く口をはさんだ。

「サナエちゃんも、みんなもそうだと思う」

紗希がはじかれたように顔を上げた。怒ったかな、と千春は反射的に身がまえた。

あらためて紗希とむきあって、はつとする。紗希の目はうっすらと潤んでいた。ほつぺたと鼻の頭は、真っ赤に染まっている。
おじさんの問いかけを、千春は唐突に思い出した。その子の受験がうまくいかなきゃいいと思う？

「さびしいよ。さびしいけど、紗希を応援したいと思ってる」

⑦ 伝われ、伝われ、と念じながら、つけ加えた。紗希がぱちぱちとまばたきをして、千春の顔をじっと見つめた。

⑧ 紗希がサナエちゃんにプレゼントを渡したのは、その次の日のことだった。

〔瀧羽麻子『たまねぎとはちみつ』〕

問一 ① 「価値観の相違」について。

I 「価値観の相違」とは、どういうことですか。解答らんに合うように本文中より二十五字以内で探し、はじめと終わりの三字をぬき出しなさい。

II 「価値観の相違」による問題を解決するためにはどうすることが必要だと言っていますか。本文中の語句を使って解答らんに合うように二十五字以内で説明しなさい。

問二 ② にあてはまる語句として最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア どっちかが相手にあやまれば

イ どっちかに考えを合わせれば

ウ 二人とも新しい考え方にすれば

エ 二人がもう話もしなければ

問三 ③ 「おじさんのたとえ話」は何を伝えたかったのですか。最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア 色々な意見を出し合ってまとめると上手うまいくということ。

イ 何か困ったことがあれば年長者に聞くしかないということ。

ウ ひとりひとりが異なっているからこそ良いのだということ。

エ お腹なかがすいているとけんかが起こりやすいのだということ。

問四 ④ にあてはまる語として最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア がんこ イ わがまま ウ みえっぱり エ おひとよし

問五 ⑤ にあてはまる語を本文中よりひらがな三字でぬき出しなさい。

問六 ⑥ 「まるくおさまる」とは、具体的にどうなることを指していますか。本文中の語句を使って十五字以内で説明しなさい。

問七 ⑦ 「伝われ、伝われ」とありますが、何を伝えたかったのですか。あてはまらないものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 決して紗希を責めているわけではないのだということ。

イ 悪気はなくなった応援する気持ちがあるのだということ。

ウ サナエと仲直りすることは難しくないのでということ。

エ 今謝あやまっておかないと大変なことになるのだということ。

問八 ⑧ 「紗希がサナエちゃんにプレゼントを渡したのは、その次の日のことだった」について。

I 紗希の気持ちを变えたのは千春のどのようなどころですか。最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア ためらうことなく、紗希とサナエにお互い^{たが}を認めるようすすめたところ。

イ 怒らせないよう、紗希の機嫌^{きげん}をうかがいながら上手に話を進めたところ。

ウ 強制するのではなく、じつと話を聞いて紗希の気持ちを受け止めたところ。

エ 理論的に問題点を洗い出し、とても冷静にそれを紗希に説明したところ。

II 紗希はサナエに対してどのように話をしたと思いますか。最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア 自分も本当はサナエの誕生日会に行きたかったのだと伝えた。

イ 自分がいい学校へ行きたいと考える理由をはっきりと伝えた。

ウ 自分の悪口を言うのは悪いことだから謝ってほしいと伝えた。

エ 自分と価値観が大きくちがうのもう遊べないのだと伝えた。

三、次の問いに答えなさい。

問一 次の①～④の□に漢数字をそれぞれ入れて四字熟語を完成させなさい。

- ① □者 扱 □ □ □ ② □ 転 □ □ 倒 □ □ □ ③ 朝 □ □ 暮 □ □ □ □ ④ □ □ 客 □ □ 来 □ □ □

問二 次の①～④の季語が表す季節として適するものを選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ① 山彩^{いろど}る 紅葉した山を、きどっておしゃれをしている人の様子にたとえている。
- ② 山眠^{ねむ}る 葉が落ち、生き物がいなくなったかのような山の様子を表現している。
- ③ 山笑^{わら}ふ 木の芽や木の花に包まれる山を、朗^{はげ}らかに笑う人の姿にたとえている。
- ④ 山滴^{したた}る 若葉や梅雨^{つゆ}時の青葉など、生命力にあふれている様子を表現している。

ア 春	イ 夏	ウ 秋	エ 冬
-----	-----	-----	-----

問三 次の①～④の漢字の部首として適するものを選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ① 劇 ア 厶 イ リ ウ 豕 エ 虎
- ② 胸 ア 月 イ 勺 ウ 凵 エ メ
- ③ 盟 ア 日 イ 月 ウ 皿 エ 明
- ④ 案 ア 宀 イ 女 ウ 一 エ 木

問四 次の①～④の文の——線部の漢字をひらがなに直しなさい。

- ① よく検討して決める。 ② 簡単に勝負がつく。 ③ 飛行機を操縦する。 ④ 柿の実が熟れる。

問五 次の①～④の文の——線部のカタカナを漢字に直しなさい。必要ならば、送りがなをひらがなで書きなさい。

- ① 交通機関がミダレル。 ② ソンケイ語を用いる。 ③ 地球オンダン化が進む。 ④ ゲームにムチユウになる。